

ている。

財務省が発表した2月の鉄鋼貿易統計は、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比8.6%増、前月比でも日数減にも係わらず6%増の368万2,000トンとなり、2月としては2008年の353万5,000トンを上回り、過去最高を記録した。国・地域別に輸出先をみると、アジアNIE's向けは主要仕向け先の韓国の減少が響き、前月比2.2%減の119万9,000トンとなった。さらに、中国は50万6,000トンと横ばいに止まったものの、ASEANは4.9%増の96万7,000トンと増加した。1月以降に海外市況が急騰し、特に遠隔地向け輸出で引合いが急増した。中でも中東向けは15万3,000トンと政治デモで減少した1月から59%増加した。3月は年度末など季節要因で輸出量は高い水準が見込まれるが、東日本大震災の発生以降、海外顧客の配船などに影響が出ており、例年に比べやや減速する可能性がある。輸入は前年同月比では33.3%増となったものの、前月比では6.9%減の54万3,200万トンと3カ月連続で減少した。国・地域別に見ると、アジアNIE'sからが前月比8.1%減の30万9,200トン、中国からが同12.9%減の6万8,100トンとなっている。

◆東日本大震災で鉄鋼業界も多大な影響

3月11日に東北、関東を襲った東日本大震災により鉄鋼業界も多大な被害を受けた。まず設備の被害においては、高炉メーカーでは新日鉄・釜石、住金・鹿島で設備の損傷を受けた。特に鹿島では高炉、コークス炉、岸壁クレーンなどが損壊し、2基の高炉の送風再開で第3高炉は9日、第1高炉は14日かかった。新日鉄・君津、JFEスチール・東日本（京浜、千葉）の高炉も大震災発生後数日間は操業を休止した。電炉メーカーではJFE条鋼（仙台、鹿島）、東北スチール（仙台）、伊藤製鉄（石巻）、東京製鉄（宇都宮）、東京鉄鋼（八戸）、三菱製鋼（宇都宮）、新日鉄住金ステンレス（鹿島）などが被災し、操業中止に入った。また、多くの鋼管メーカー、建材加工メーカー、鉄鋼流通企業も冠水などにより被害を受けた。さらに、多くの鉄鋼関連企業が存立している浦安の鉄鋼団地は地盤が液状化し、営業活動が休止の状態となっている。

大震災に伴う間接的な被害としては東京電力が行っている計画停電による生産休止がある。関東地区にある普通鋼電炉、特殊鋼電炉メーカーで、東京電力の要請に従って停電の対象区域にある工場は停電時間帯に操業を休止しており、生産計画の大幅な修正に迫られている。さらに、電気炉の立ち上げには2時間以上かかり、計画停電により生産性は非常に悪化している。一方、新日鉄は君津製鉄所で自社の下工程向けのエネルギー供給を一部制限し、東電との共同出資会社の君津共同火力へ供給を増やしている。また、東電福島第1原発の放射性物質漏出の影響は福島県内の鉄鋼関連企業にも及び、従業員の自宅待機などにより営業停止を行う企業も出てきている。

非鉄金属産業も大きな被害を受けている。自動車や建材に用いられる亜鉛めっき鋼板の素材である亜鉛も、約4割の生産シェアを有する三井金属の八戸精錬所が津波に襲われ再開に1カ月を要するといわれる。復興資材の製造に遅れを生ずることも懸念される。また、石油関連燃料の不足が大きな問題として浮上しており、鋼材物流への影響も懸念される。

◆震災復興用鋼材需要、300万トン——野村證券試算

野村證券の震災復興に関するレポートでは、仮に今回の東日本大震災による復興関連予算が6兆円で、ほぼ全てが建設投資関連と仮定すれば、復興鋼材需要は300万トンに達すると見通している。阪神淡路大震災の時には復興関連予算は1994年度、95年度合計で3.2兆円に達し、鋼材の復興需要は150万トンと推定されている。今回は当時の2倍の規模と

の予測がされている。復興需要では、まず仮設住宅の建築が想定される。プレファブ住宅などが建設される見込みで、中小型の形鋼，コラム，屋根材用建材薄板などが多く使用される。また河川の修繕用には鋼矢板などが必要とされる。

◆ 2月世界粗鋼生産， 1億 1,657万トン

世界鉄鋼協会が発表した2月の世界（64カ国）粗鋼生産は、前年同月比8.8%増の1億1,657万トンとなり、17カ月連続で前年同月実績を上回った。前月比では8.2%減となり、中国は9.3%減の543万7,000トン、中国以外は7.3%減の226万1,000トンであった。日数が少ないため月間では減少したものの、日産量は約416万トン（年換算では約15億2,000万トン）で、前月比1.6%と増加した。中国では0.4%増、中国以外では2.7%増だった。64カ国の製鋼操業率は82.0%と1月の80.9%、前年同月の79.3%をともに上回った。世界的な金融危機の影響で生産量が大きく落ち込んだ2009年2月との比較では35.2%の増である。

◆ 2010年世界鉄鋼メーカー，粗鋼生産ランキング

鉄鋼新聞社がまとめた2010年の世界鉄鋼大手企業における粗鋼生産ランキングによると、首位のアルセロール・ミッタルは9,060万トンで、欧米の生産回復が鈍かったために1億トン台に届かなかった。2位の河北鋼鉄集団は唐山鋼鉄を母体に邯鄲鋼鉄、河北敬業など省内ミルの統合を進め、合算粗鋼は5,290万トンと5千万トン台に到達した。3位の宝山鋼鉄集団も既存製鉄所や傘下の八一鋼鉄、寧波鋼鉄などで増強を進めたことで4,450万トンと初の4千万トン台を突破した。4位の鞍山鋼鉄集団は4,030万トン、5位の武漢鋼鉄集団は3,660万トンと2位から5位まで中国大手が占めた。

表1 世界鉄鋼メーカーの粗鋼生産ランキング（2010年）

			(単位:万トン)
社名	本社所在地		年間生産量
1 アルセロール・ミッタル	ルクセンブルグ		9,060
2 河北鋼鉄集団	中国		5,290
3 宝山鋼鉄集団	中国		4,450
4 鞍山鋼鉄集団	中国		4,030
5 武漢鋼鉄集団	中国		3,660
6 新日本製鉄	日本		3,450
7 ポスコ	韓国		3,370
8 JFEスチール	日本		3,110
9 江蘇沙鋼集団	中国		3,010
10 首都鋼鉄	中国		2,580
11 タタ製鉄	インド		2,350
12 山東鋼鉄集団	中国		2,320
13 USスチール	米国		2,210
14 新武安鋼鉄	中国		1,860
15 ゲルダウ・グループ	ブラジル		1,850
16 ニューコア	米国		1,830
17 セベスター	ロシア		1,700
18 ティッセン・クルップ	ドイツ		1,670
19 エブラズ	ロシア		1,630
20 馬鞍山鋼鉄	中国		1,540

(出所: 鉄鋼新聞)

新日鉄は3,450万トンとなり、統合を検討している住友金属工業の1,310万トンが加わった場合、4,760万トンで世界3位前後になる見込みである。韓国最大手のポスコは3,370万トンで7位となり、JFEスチールは3,110万トンで3千万トン台を回復し、8位となった。 □